大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード		設置等組織名	博多大学（仮称）データサイエンス学部データサイエンス学科
大学名	博多大学	設置区分	大学		
学校種	私立	都道府県	福岡県	事業計画名	博多大学（仮称） 学部の新設

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	1-① 令和 5年 1月 （一社）考働経営研究所による新大学設置に関する検討・準備（校地・校舎の準備含む） 1-② 令和 5年 5月 博多大学（仮称）設立準備委員会の設置 1-③ 令和 5年 5月 博多大学（仮称）および学校法人博多大学（仮称）の設置認可申請の準備作業 1-④ 令和 5年 5月 フェーズ１計画への申請 1-⑤ 令和 5年 6月 新大学・学部の校舎建築（増築する新棟、改築する既存棟）に関する設計作業 1-⑥ 令和 5年１０月 博多大学（仮称）および学校法人博多大学（仮称）の設置認可申請 1-⑦ 令和 5年１１月 新大学・学部の校舎整備に向けた既存棟改修の詳細設計	1-① 令和 5年 1月 （一社）考働経営研究所による新大学設置に関する検討・準備（校地・校舎の準備含む） 1-② 令和 5年 5月 博多大学（仮称）設立準備委員会の設置 1-③ 令和 5年 5月 博多大学（仮称）および学校法人博多大学（仮称）の設置認可申請の準備作業 1-④ 令和 5年 5月 フェーズ１計画への申請 1-⑤ 令和 5年 6月 新大学・学部の校舎建築（増築する新棟、改築する既存棟）に関する設計作業 1-⑥ 令和 5年１０月 博多大学（仮称）および学校法人博多大学（仮称）の設置認可申請 1-⑦ 令和 5年１１月 新大学・学部の校舎整備に向けた既存棟改修の詳細設計	令和5年度自己評価 【３】計画を十分に実施している。
令和6年度	1-⑧ 令和 6年 1月 新大学・学部の校舎整備に向けた新棟建築の詳細設計 1-⑨ 令和 6年 9月 新大学・学部の学生募集開始 2-① 令和 6年 9月 新大学・学部の校舎整備に向けた既存棟の改修工事（令和６年１２月完成） 2-② 令和 6年 9月 新大学・学部の校舎整備に向けた新棟の建築工事（令和７年９月竣工・引渡） 1-⑩ 令和 6年１０月 一部教員候補者と事務員の開学前採用、および開学準備作業	1-⑧ 令和 6年 1月 新大学・学部の校舎整備に向けた新棟建築の詳細設計 2-① 令和 6年 2月 新大学・学部の校舎整備に向けた既存棟の改修工事（令和６年１２月完成） 1-⑪ 令和 6年 8月 認可申請に向けた設置準備室の開設と拡充、申請作業、学生受入準備開始（R6.10.21承認） 2-③ 令和 6年 9月 校舎建築予定地にある既存建築物の撤去完了（R6.10.21承認） 2-④ 令和 6年１０月 校舎建築予定地の事前土地整備の完了（R6.10.21承認） 2-② 令和 6年１０月 新大学・学部の校舎整備に向けた新棟の建築工事着工（令和８年３月竣工・引渡） （R6.10.21承認）	令和6年度自己評価 【２】計画を十分には実施していない。 大学設置審査の過程で受けた指摘事項への対応の不備、とくに財産収納に関する手続き上の瑕疵があったこと、および建築工事遅延による引渡時期の延期にともなって学生受入準備が間に合わないことにより、これらの原因を取り除いて万全の学生受入準備を整えるため、事業のリスクシュールを行って一年間の延期を検討した。事業計画の変更承認申請を10月に行い、機構より10月21日に承認を受け、令和6年度は継続して、設置認可申請を行なった。 指摘事項への対応と財産収納に関する手続きに関する瑕疵は解消した上で、令和6年10月に認可申請を行なった。 建築工事遅延による引渡時期の延期の見通しとなったため、事業計画の変更承認申請を10月に行い、機構より10月21日に承認を受けた。建築遅延の主たる原因は、建築確認の手続き中に、建築予定地に遺跡が存在する可能性があるためボーリング調査をしたいとの福岡市からの連絡があり、その調査に予定外の日程を費やしたことによる。その他、建築予定地に埋設されていた障害物（土地売買重要事項に記載の無い撤去済建築物基礎）が出現し、その解体撤去に予定外の日程を要したことにもよる。 上記の遅延理由は解消し、新築工事の着工に至って工事が進められている。竣工時期が開学予定の前年度末となったが、開学年度（一年次）の前期授業は既存棟での履修であるため新入生の受け入れに支障は生じない。
令和7年度	~~3-① 令和 7年４月 博多大学（仮称）開学、新学部生入学（当初半年間は改修した既存棟校舎にて授業）~~ ~~3-② 令和 7年４月 自走化への取組 学生確保の取り組みに注力~~ 1-⑫ 令和 7年11月以降 入試など学生を迎え入れるための準備（R6.10.21承認） 2-② 令和 7年 4月～ 令和 8年 3月 学部棟校舎の工事 2-⑤ 令和 8年 3月 学部棟校舎の設備整備	1-⑫ 令和 7年11月以降 入試など学生を迎え入れるための準備 2-② 令和 7年 4月～ 令和 8年 3月 学部棟校舎の工事（令和８年6月竣工・引渡予定） 2-⑤ 令和 8年 3月 学部棟校舎の設備整備	令和7年度自己評価 【２】計画を十分には実施していない。 大学設置審査の過程で受けた指摘事項への対応不足、および建築工事遅延による引渡時期の延期にともなって、事業計画の変更承認申請を7月に行い、機構より9月29日に承認を受けた。指摘事項については、事務相談を重ねて申請の準備を行い、令和7年10月に認可申請を行なった。申請後には、入試、および広報活動の準備も進めていたが、文部科学省より審査意見の通達を受け、設置認可申請の取り消し手続きを行なった。
令和8年度	~~3-② 令和 8年４月 自走化への取組 優先課題から順次取り組む~~ 2-② 令和 8年 4月～ 6月 学部棟校舎の工事（R7.9.29承認） 2-⑤ 令和 8年 4月～ 9月 学部棟校舎の新築工事完了後の設備整備（R7.9.29承認） 3-③ 令和 8年４月 高大連携やオープンキャンパスなど高等学校へ本学部の認知を広める事業 3-④ 令和 8年４月 産学官連携事業の推進		令和8年度自己評価 リストから選択してください。
令和9年度	~~3-③ 令和 9年４月 自走化への取組 優先課題から順次取り組む~~ 3-⑤ 令和 9年４月 高大連携やオープンキャンパスなど高等学校へ本学部の認知を広める事業（R6.10.21承認） 3-⑥ 令和 9年４月 産学官連携事業の推進（R6.10.21承認）		令和9年度自己評価 リストから選択してください。
令和10年度	~~3-④ 令和 １０年４月 自走化への取組 学生の就職先開拓に注力~~ 3-⑦ 令和 １０年４月 高大連携やオープンキャンパスなど高等学校へ本学部の認知を広める事業（R6.10.21承認） 3-⑧ 令和 １０年４月 産学官連携事業の推進（R6.10.21承認）		令和10年度自己評価 リストから選択してください。
令和11年度	3-⑨ 令和 １１年４月 高大連携やオープンキャンパスなど高等学校へ本学部の認知を広める事業（R6.10.21承認） 3-⑩ 令和 １１年４月 産学官連携事業の推進（R6.10.21承認）		令和11年度自己評価 リストから選択してください。
令和12年度	令和 １２年４月 高大連携やオープンキャンパスなど高等学校へ本学部の認知を広める事業（R7.9.29承認） 令和 １２年４月 産学官連携事業の推進（R7.9.29承認）		令和12年度自己評価 リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価 リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価 リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和 5年10月 博多大学データサイエンス学部データサイエンス学科 設置認可申請予定	令和 7年10月17日 博多大学データサイエンス学部データサイエンス学科 設置認可申請	
定員減又は 学部等の廃止			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	博多大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通した教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
□ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
■ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業や自治体と連携したPBL演習科目を専門応用科目として導入する副専攻の全てに取り入れ、企業や自治体の課題を具体的に解決する課程を学び取る授業を展開する計画である。これら企業や自治体と連携したPBL演習科目を展開するためにも、その基盤となる産学官連携を推進する場として設置予定の共同研究施設（高速大容量通信やスパコンの共同利用設備を擁する）を用いた地方自治体との連携の仕組みを構築する計画である。 グローバルにデジタル化が進む現在、海外大学と連携した教育研究の推進は不可欠であり、単位互換制度の充実や交換留学プログラムの充実を図るため大学間交流を進める計画である。また、日本でも徐々に認知度が高まってきたMOOCs（Massive Open Online Courses）に参画することでこれらプラットフォームを介して大学・企業と広く連携して授業や講座を構築し、インターネットを通じてオンライン配信することを計画している。参加するMOOCsとして、2019年9月現在で196の大学・企業と提携し3,751の講座と16の学位を提供しているCourseraを検討している。	4つのドメイン領域の内容に特化したPBL演習科目を取り入れ、企業や自治体の課題を具体的に解決する課程を学ぶカリキュラムを策定し、認可申請を行なった。なお、教育の充実や研究の推進に必要な設備として、高速大容量通信やコンパクト・スーパーコンピュータの導入を含んだ申請である。 大学設置認可後は、単位互換制度の充実や交換留学プログラムの充実を図るため、大学間交流を進める計画を検討していく。具体的にはMOOCsに参加することも検討し、プラットフォームを介して大学・企業と広く連携して授業や講座を構築し、インターネットを通じてオンライン配信することを計画している。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
■ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
文系・理系を問わず、また普通高校のみではなく、商業高校や工業高校の卒業生が入学できる入試科目の設定、選抜方法を採用する計画である。女子学生の確保の面でも、データサイエンス学科の教育内容を高等学校に周知する広報の取り組みに注力し、文系・理系の別がない教育プログラムであることの理解を深める広報を計画している。また、高大連携、出前講座、オープンキャンパス（対面開催およびネット開催）を通じて、データ駆動型社会においてデータエンジニア、データアナリスト、データサイエンティストがどのような役割を担ってそれぞれの職場で働くのかについて、正しい職業イメージの定着を図る計画である。リカレント講座を定期的に開設して社会人のリスキリングを支援し、また、社会人入試を導入して社会人学生の受け入れを強化する計画である。留学生の受け入れについてはとくに注力する考えて、中でも近隣アジア諸国からの留学生受け入れについてはできるだけ早期に進める計画で、教員候補者らのこれまでの留学生支援実績を基盤として具体的な対象国を絞った効果的な留学生受け入れプログラムを構築し、教員候補者のコネクションを活用した海外広報を展開する計画である。	文系・理系を問わない入試科目の設定や総合入試に女子枠を設定するなど女子学生の確保を視野にいれた選抜方法を策定して設置認可申請を行なった。 大学の認知度を上げるための広報活動の一環として、大学の概要を示したパンフレットを作成するなど、広報媒体の製作に取り組んでいる。 実際の広報活動としては、福岡だけでなく、九州圏内の高校を訪問し、丁寧な大学の説明を実施している。文系・理系を問わない学部であることと教育内容の周知を行なうべく、ホームページの整備や進学サイトを通じた広報活動に力を入れた。また、認可後には、高大連携、出前講座、オープンキャンパス（対面開催およびネット開催）を通じて、データ駆動型社会においてデータエンジニア、データアナリスト、データサイエンティストがどのような役割を担ってそれぞれの職場で働くのかについて、正しい職業イメージを高校生に伝えるための活動を継続的に実施する計画である。 リカレント講座を開講するための校舎整備は概ね完了した。また、近隣アジア諸国からの留学生受け入れについては、近隣日本語学	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	博多大学

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

年度	区分	指摘事項等	対応状況
令和6年度	実施状況報告書指摘事項	大学設置審査の過程の対応の不備等により、計画全体を約１年延期し、当初計画に遅れが生じている。早急に開設に向けた取組を進めること。	前回の大学設置審査における対応不備の一つであった「学生確保の見通し」に関するアンケート調査の回答数不足については、今回は十分な要員を配置し、計画的かつ集中的に調査を実施した。その結果、必要かつ十分な有効回答数を確保し、入学定員を大きく上回る本学部入学希望者の回答を得ることができた。また、工事等の大学設置準備に関する遅延については、原因分析に基づき改善策を講じた。以上の対応を踏まえ、令和7年9月17日に大学設置評価室との事務相談を実施し、諸般の対応方針を提案済みである。 教育内容に関する指摘事項については、「グローカル」の概念のうち、従来「ローカル」を日本全体としていた点を改め、地域に設置する大学としての使命をより明確にするため、「ローカル」を九州と位置づけて教育全体を再構成した。具体的には、九州の地域課題を解決する人材養成を教育理念の中核に据え、シラバス内容を中心に教育課程全体を再検討・再構築した。入試科目に関する指摘事項についても、総合型選抜および学校推薦型選抜（指定校型・公募型）における評価項目を見直し、情報リテラシーを評価対象に加えるなど、書類審査の内容を改善した。 以上、前回申請時に修正未了であった全ての指摘事項に対して適切な改善を行い、その対応内容を反映した上で、令和7年10月17日に大学設置申請を行った。

大学名	博多大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	データサイエンス学部データサイエンス学科（理学関係）

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
改組状況				選定				開設														
事業計画に定める定員		入学定員	人					160														
		編入学定員	人																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	-																
		入学者数(B)	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	-																
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	-																
		編入学定員	人	-	-	-																
		在籍者数(D)	人	-	-	-																
		編入学者数	人	-	-	-																
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	-																
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	-																
		授業科目の単位数	単位	-	-	-																

大学名	博多大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	-																
		入学者数(B)	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	-																
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	-																
		編入学定員	人	-	-	-																
		在籍者数(D)	人	-	-	-																
		編入学者数	人	-	-	-																
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	-																
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	-																
		授業科目の単位数	単位	-	-	-																

大学名	博多大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	-																
		入学者数(B)	人	-	-	-																
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	-																
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	-																
		編入学定員	人	-	-	-																
		在籍者数(D)	人	-	-	-																
		編入学者数	人	-	-	-																
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	-																

４.外部資金の状況（全学）

年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況	申請−5年	申請−4年	申請−3年	申請−2年	申請−1年	選定													
項目	単位																		
外部資金獲得額	千円	0	0	0	0	0	0	0											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得	千円	0
本事業による助成金の額(F)	千円	1,008,850
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	25,221

特記事項